

Lenovo はビジネスに Windows 11 Pro をお勧めします

Smarter
technology
for all

Lenovo

MODERN IT

ハイブリッドワーク時代のPC展開と運用をサポートする
ハードウェアベンダーならではの包括的なサービス

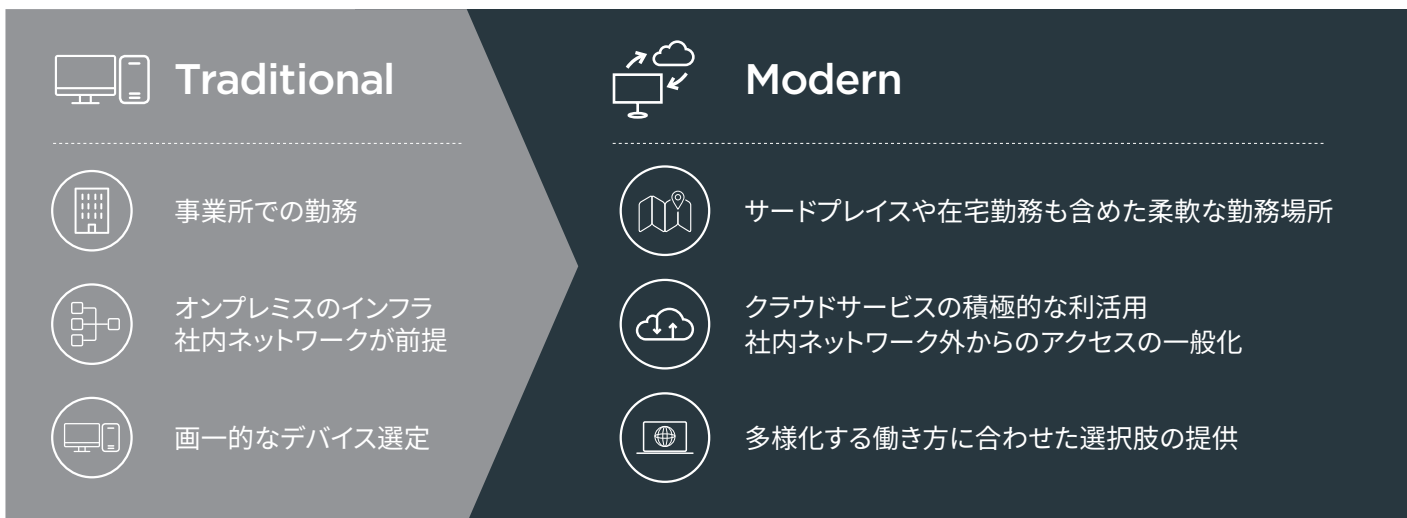
 **Windows 11**

Windows 11 Pro はハイブリッドワーク向けに設計されています

本ドキュメントに記載の内容は2022年3月時点のものです
今後、予告なく変更または削除となる場合があります

持続可能な柔軟な働き方の実現を支える ハイブリッドワーク時代のデバイス展開と管理の新たな潮流

ハイブリッドワークに代表される場所にとらわれない柔軟な働き方の普及など、2020年以降、日本の働き方は大きな転換点を迎えています。業務環境の観点でも、クラウドへのシフト、社内ネットワーク外での勤務の増加など多くの変化が起きています。



Lenovo Modern ITは、先行してIaaSやPaaSなどの領域で進んでいるクラウド化の潮流をデバイス展開や管理にも適応し、ハイブリッドワーク時代に最適な勤務環境構築のベースラインとしてお客さまに向けてレノボが一気通貫で提供するデバイスプロバイダーならではのサービスです。

コラム

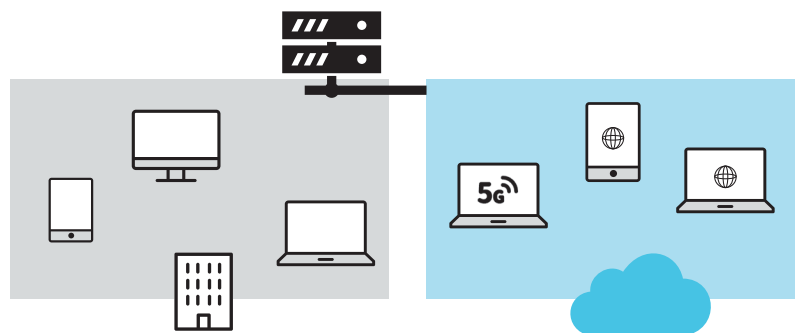
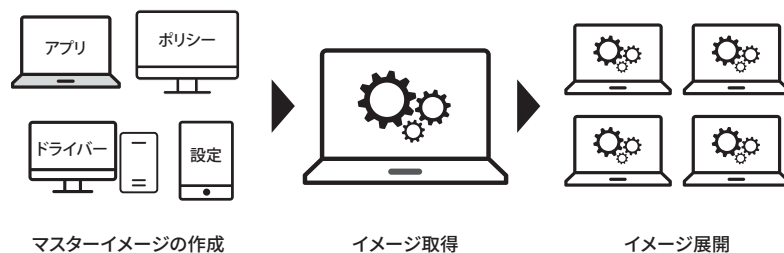
マスターイメージ作成から イメージ展開

働き方が多様化する中で、選定したデバイスごとにマスターイメージを作成する必要があり、標準選定のデバイスを増やす際に追加の工数がかかります。また、OSのバージョンアップごとにマスターイメージを作成しなおす必要があり、追従にかかるIT部門の工数に課題が生じます。

オンプレミスが前提の 運用管理アーキテクチャ

公衆ネットワークからの接続やクラウドサービスの利用など、デバイスが社内ネットワークの外で運用される場合、社内ネットワーク内で閉じたアクセスが前提となる従来の管理手法ではモニタリングや管理に課題となります。

必ずしも最適解と言えなくなった従来型のPC展開・管理手法



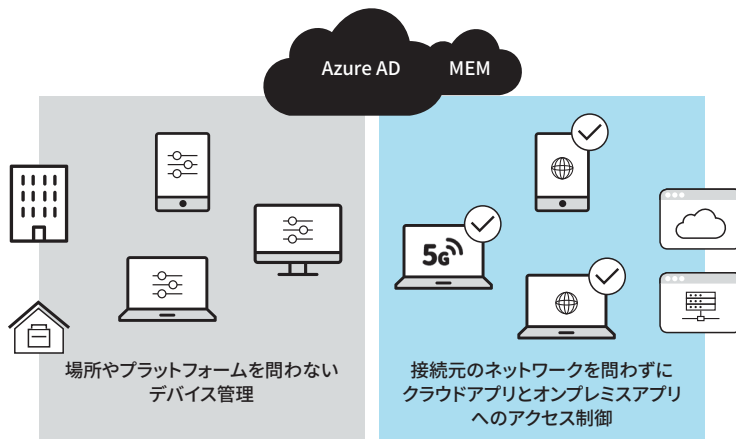
モダンマネジメント クラウドを活用したPC管理手法の新たなスタンダード

従来型のPC展開・管理の抱えていたアーキテクチャ上の課題を解決し、ハイブリッドワーク時代に最適化されたクラウドベースの新たな管理手法がモダンデプロイメントです。Microsoft 365 に含まれるIDおよびアクセス管理サービスである Azure Active Directory (Azure AD) と Microsoft Endpoint Manager (MEM) を活用することで、勤務場所を問わない柔軟な管理やガバナンスの確保が可能です。

Microsoft 365 以外のSaaSアプリケーションや、オンプレミス上の業務アプリケーションへのアクセスを一貫して制御することも可能で、ゼロトラスト実現の第一歩としても機能します。

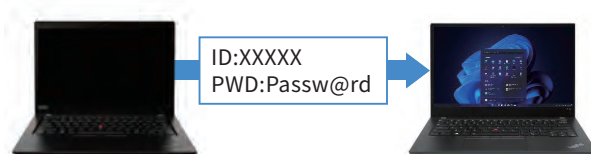
モダンマネジメントの特徴

- ・クラウドネイティブなアーキテクチャ
- ・勤務場所を問わないデバイス管理の実現
- ・接続元のネットワークと問わない一貫したアクセス制御



モダンデプロイメント Windows Autopilotを活用したゼロタッチデプロイメント

Windows 11 や Windows 10 に組み込まれたPC展開の新たな仕組みである Windows Autopilot を活用することで、IT管理者が物理的にPCに触れることなく、従業員が配布されたPCにサインインするだけで業務環境が用意できる、直感的な利用体験を実現できます。



コラム

ゼロタッチデプロイメントとは？

ゼロタッチデプロイメントとは？

IT管理者を物理的に介さずにエンドユーザーにPCが届き、IDとパスワードでログインすることで初期設定を“遠隔”で完了させるデプロイメントの手法

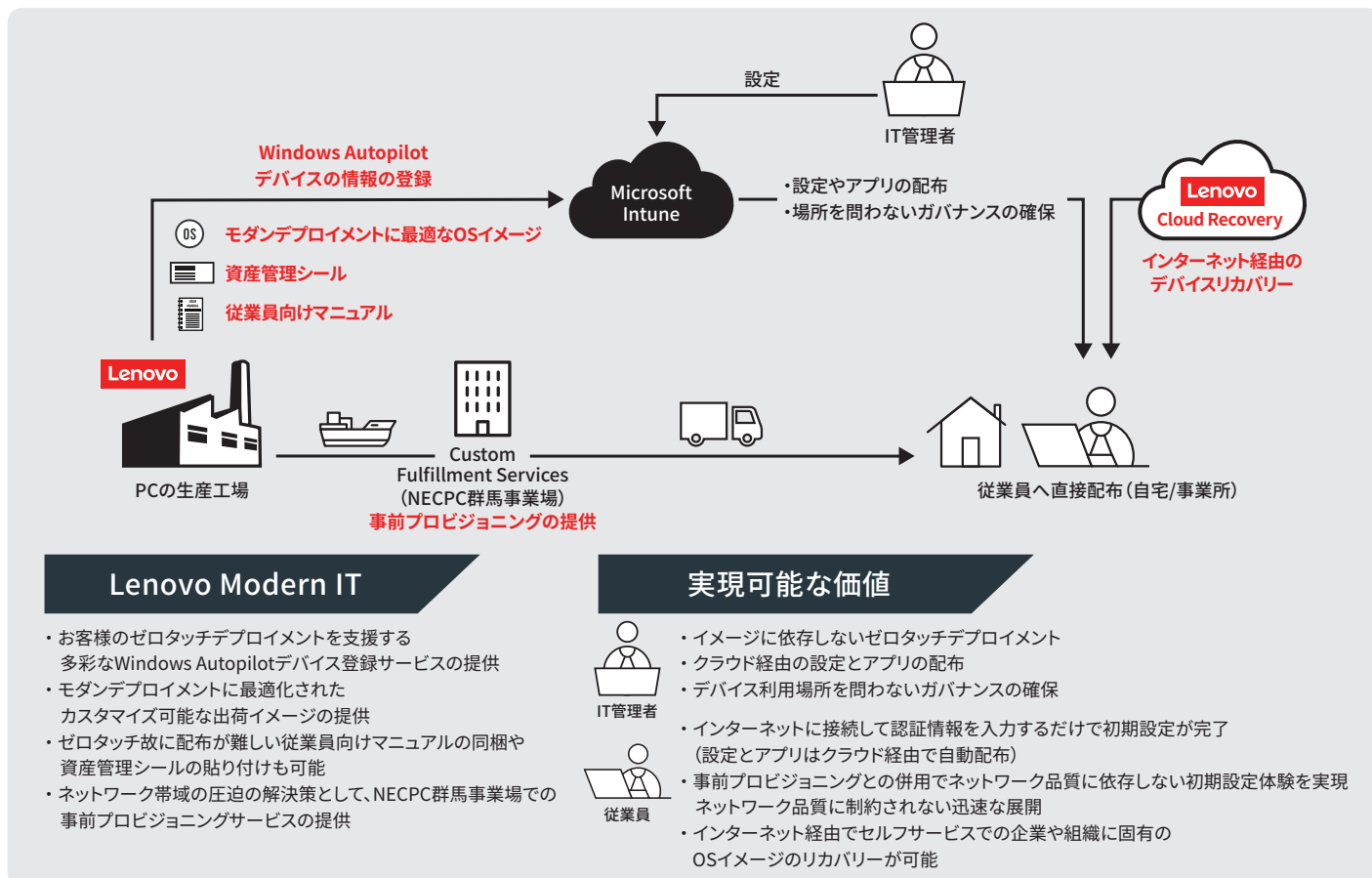
工場 → 従業員に直送 → 従業員 → 設定 → IT管理者 → 設定

IT管理者にとってのメリット

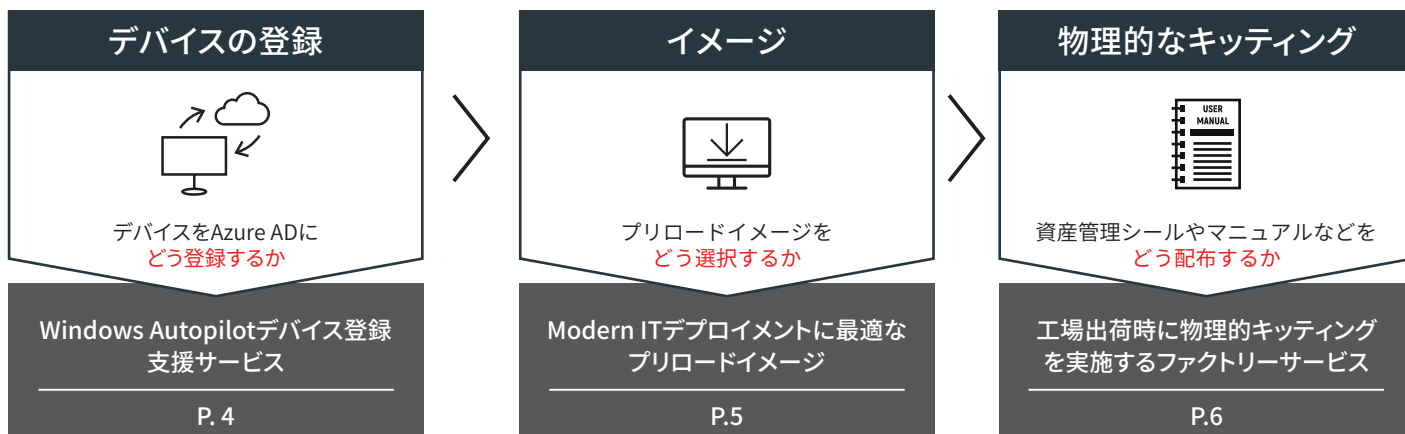
- 出荷イメージを活用することにより多様化する従業員の働き方に合わせた柔軟なデバイス選択が可能
- お客様の「キitting」の手間を最小化することで人的リソース、コストの削減、また配布までのリードタイムを削減可能
- プロファイル設定やモニタリング機能をクラウド側で実施することによる運用上の柔軟性の担保

Lenovo Modern IT 円滑なゼロタッチデプロイメントを実現する ハードウェアベンダーならではの包括的なサービス

Windows Autopilot を介したゼロタッチデプロイメントを実現するためには、デバイスの登録、物理マテリアル(同梱物や資産管理シールなど)の取り扱い、そして従業員体験を高めるイメージ関連の事前準備など、多くの観点を検討する必要があります。Lenovo Modern IT はお客様のデバイス展開をサポートする多くのサービスによって構成されたハードウェアベンダーならではのサービスです。



Lenovo Modern IT を構成するサービス



デバイスの登録

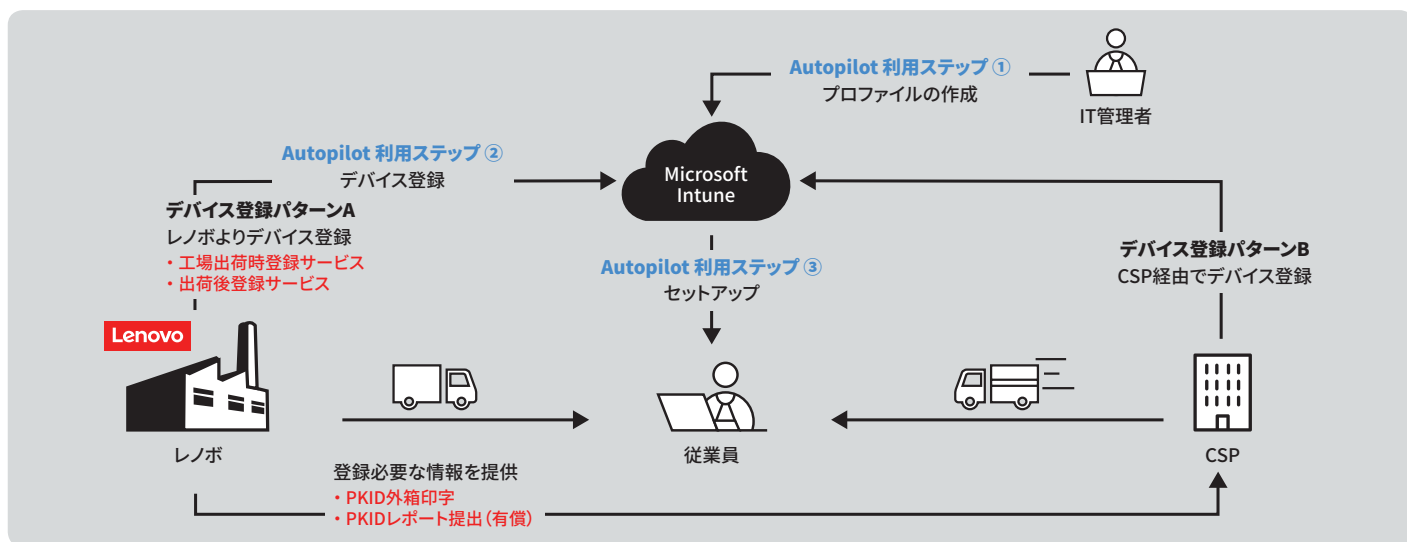
Windows Autopilotを通じてデバイスを展開するためには、デバイスを事前に組織のAzure ADテナント上に登録することが必要です。PCメーカー、Microsoft 365の契約元であるCloud Service Provider (CSP)、もしくはIT担当者ご自身でデバイスをAzure ADに登録することができます。



ゼロタッチデプロイメントを実現する主なステップ

- Step①**
Windows Autopilotプロファイルの設定
- Step②**
デバイスを組織のAzure ADに登録
- Step③**
ユーザーセットアップ

Lenovoの提供するWindows Autopilotデバイス登録サービス



出荷時デバイス自動登録サービス (Baseline Autopilot)

お客さまごとにカスタマイズされた型番で発注いただくことで、工場出荷時にデバイス情報を自動登録するサービスです。

特徴

工場出荷時に自動的にデバイス情報が登録されるため、手動での登録の手間なくWindows Autopilotをご利用いただけます。従業員へのゼロタッチでの配布を検討される際におすすめです。

CSPでのデバイス登録を支援するPKIDの提供

CSPがデバイス登録を行う際に必要なPKIDと呼ばれる識別情報は、法人向けWindows PCの外箱にバーコード形式で記載され、スキャンすることでPC外箱を開梱せずにデバイスの事前登録が可能です。多数のデバイスを一括で登録したいCSPパートナー向けには、PKID一覧を提供する有償サービスも併せて提供しています。

出荷済みデバイス登録サービス

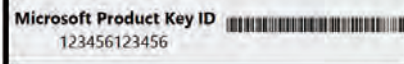
工場出荷済みのデバイスに対して後追いでデバイス登録することが可能なサービスです。

特徴

企業や組織で現在使用中のデバイスをWindows Autopilotを用いて再度セットアップするニーズや流通在庫からの登録に対応します。

コラム

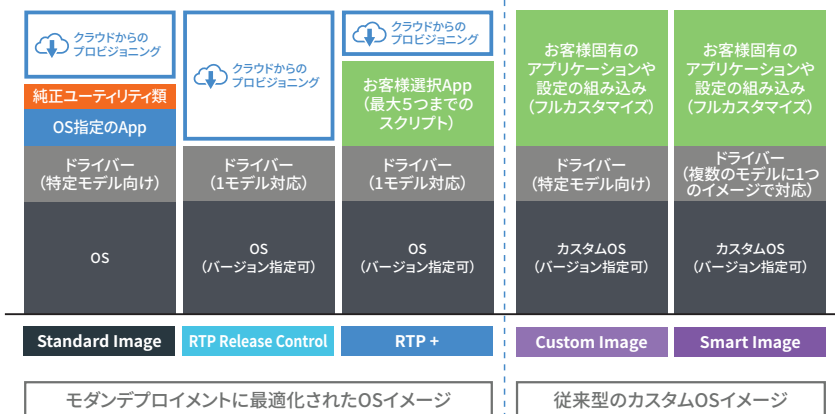
PKID印字ラベルのサンプル



イメージ

プリロードイメージの種類

モダンデプロイメントでは、プリインストールされた OS イメージの上にお客様固有のアプリケーション、設定値を直接読み込ませて初期設定(プロビジョニング)を行います。そのため、バージョン指定可能な不要なアプリケーションが入っていないクリーンな OS イメージを用意することが必要です。Lenovo では、モダンデプロイメントに最適なプリロードイメージである RTP Release Control/RTP+ を工場出荷時に導入してお届けします。必要に応じて従来より提供している Custom Image や 1 種類のイメージで複数のモデルに対応可能な Smart Image もご利用いただけます。



RTP Release Control Ready to Provision Release Control

Windowsのバージョン指定も可能なモダンデプロイメントのためのOS + ドライバーのみのプリロードイメージ

特徴

- オペレーティングシステムとシステム動作に必要なドライバーのみ (スタンダードイメージと比較して約25のアプリケーションを削除)
- Windows 11/ Windows 10のバージョンを指定可能
- クラウドから直接OSイメージをダウンロード可能なサービスをファームウェア上で提供

どういった環境に適しているのか

- すべての設定やアプリケーションをクラウドから配信するケース
- 大容量のアプリケーションのMDM/EMS経由での配布行われない、もしくは Windows Autopilot for pre-provisioned deploymentを利用するケース
- 展開時のWindowsバージョン管理の工数を削減しつつ合わせたいケース

RTP+ Ready to Provision Plus

カスタムアプリケーション搭載することにより柔軟性をさらに高めたカスタムプリロードイメージ

特徴

- RTPのクリーンなイメージ上に、最大5つのお客様が選択したパッケージをプリインストール可能
- 契約年数に応じたイメージメンテナンスサービス
- RTP Release Controlの持つバージョン固定とクラウドリカバリーはRTP+でも提供

どういった環境に適しているのか

- ネットワーク帯域制限が厳しい環境でWindows Autopilotをエンロールメントするケース
- 展開するアプリケーションの中にMicrosoft Officeなどの大容量のアプリケーションが含まれるケース
- 展開時のWindowsバージョン管理の工数を削減しつつ合わせたいケース

コラム

Lenovo Cloud Recoveryとは？

RTP Release Control/ RTP+の一環として提供されるサービスとして、UEFIからお客さまの独自のイメージをLenovoクラウドからダウンロード、デプロイ可能なサービスです。OS再インストールの必要が発生した場合、工数を最小限に抑えることができます。年間契約によりプリインストールイメージが更新された場合は、クラウド側のイメージも更新されるため、常に最新のイメージを適用可能です。リカバリーイメージを企業内で統一したい組織向けにすでに出荷済みのデバイス向けのサービスの追加も可能です。

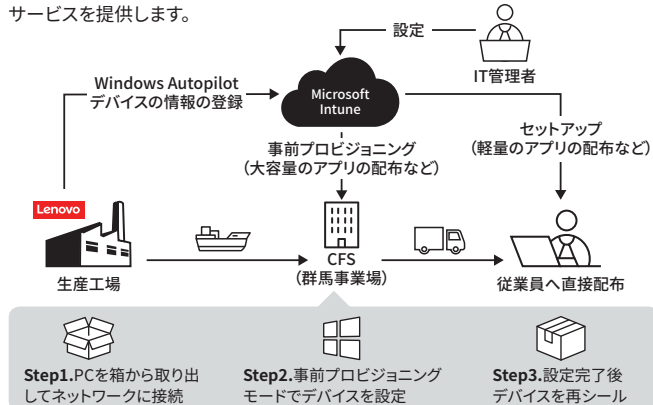


Step1. BIOSからLenovo Cloudを選択して、IDとPWなどを入力してクラウドに接続

Step2. クラウドに保存したお客様の専用イメージでデバイスをリカバリー

NECPC 群馬事業場内に設置された CFS によるネットワーク帯域の圧迫を解決するセカンドタッチへの対応

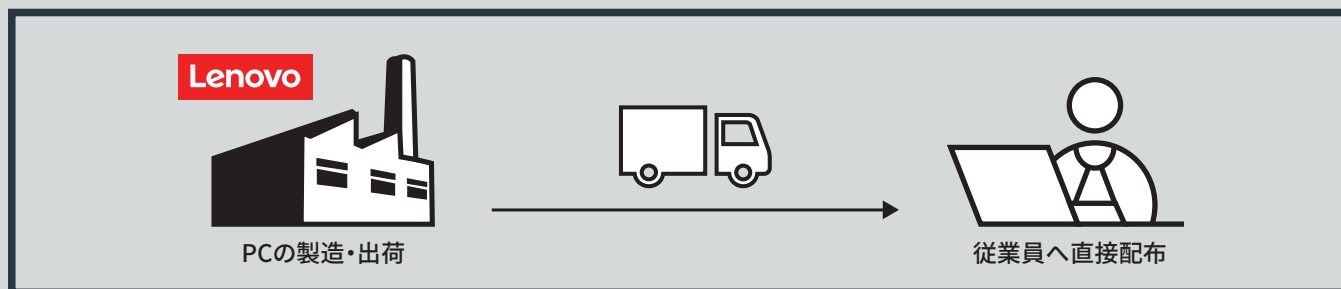
従業員の自宅やサードプレイスからインターネットを通じて大容量のアプリケーションを配布する場合や社内ネットワークから一斉にセットアップが行われる場合、接続元のネットワーク品質によっては帯域を圧迫するだけでなく、PCの利用準備が完了するまでに長い時間を要する可能性があります。このような課題を解決するため、CFS (群馬事業場) では企業や組織に共通の重量級のアプリケーションや設定を従業員の手に届く前に事前プロビジョニングを実施するサービスを提供します。



Windows 11 Pro はハイブリッドワーク向けに設計されています

物理的なキータング

ゼロタッチデプロイメント時の課題:物理的キータング



課題 展開前に物理的にIT部門がPCにタッチできない

物理的キータングをPC生産時に工場に行うことで
真のゼロタッチデプロイメントを実現

Drop-in-the-Box

Windows Autopilotを用いたデプロイメントでは、授業員が初期設定を自身で実施、すなわちネットワークへの接続後、IDアカウントでのサインインを実施する必要があります。手順の案内書や企業や組織独自のインストラクションを工場出荷時に同梱するサービスを提供します。

特徴

- ドキュメントを梱包箱内に印刷の上でPC生産時に同梱
- 20ページまで対応可能
- 白黒印刷を推奨
- 標準印刷物と一緒にビニール袋に同梱

Asset Tag

資産管理シールを印刷して製造工場にてPC筐体への貼り付けまで実施するサービス

フォーマット

- いくつかのサイズから選択可能
- 背景カラーは銀色
- 2次元バーコードの他に3次元バーコード (QRコード対応可能)



特徴

- 耐久性のあるラベル素材を使用
- 貼り付け場所は選択肢の中からの指定
- UEFI内への資産管理番号の登録も対応

BIOSカスタマイズ

お客様指定のUEFIの設定を製造工場にて適用の上で出荷するサービス

カスタマイズの例

- TPMセキュリティ設定
- スーパーバイザーパスワード
- ブートオーダー
- 各ポートの設定



Lenovo

Smarter technology for all

一人ひとりの働き方に最適な環境を

ホームワーカー フリーアドレスワーカー

在宅勤務や事業所内の移動を中心とした働き方

- テレワークの頻度: ホームワーカー :週4~5回
フリーアドレスワーカー:週0~1回
- 勤務場所: ホームワーカー :基本的に常時在宅勤務
フリーアドレスワーカー:事業所内での移動が中心

ハイブリッド・テレワーカー

日々最適な場所を能動的に選びながら柔軟に勤務

- テレワークの頻度: 週2~4回
(業務内容によって柔軟に選択するため週によって異なる)
- 勤務場所: 自宅・事業所・コワーキングスペース・カフェなど
不特定の場所で勤務

インターナルワーカー

事業所の固定席での利用がメイン

- テレワークの頻度: 0回
(事業所外での勤務を原則想定しない)
- 勤務場所: 所属する事業所の固定席

14型
大画面薄型モバイル

13~14型
薄型軽量モバイル

15型
薄型ノート デスクトップ

14型
大画面マルチモード 2-in-1

13型
薄型マルチモード 2-in-1

テレワーク



事業所やホームオフィス



働く場所とデバイスに
依存しない一気通貫の
デプロイメントと運用

Lenovo Modern IT

Lenovo
Services

Software & Managed Services

Lenovo、Lenovo、Lenovo、BladeCenter、eXFlash、Flex System、iDataPlex、NeXTScale、NeXTScale System、ServeRAID、ServerProven、System x、ThinkCentre、ThinkPad、ThinkStation、ThinkServer、New World New Thinking、ThinkVantage、ThinkVision、ThinkPlus、TrackPoint、TruDDR4、Rescue and Recovery、UltraNavは、Lenovo Corporationの商標、IBM、IBM Corp.、ibm.com、IBM Flex System、Storage、System Storage、Tivoliは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。Microsoft、Windows、Windows 10、Windows Vista start button、Windows Aero、Windows BitLocker、Windows Hello、Windows Live、Windows Media、Windows ReadyBoost、Windows ReadyDrive、Windows Server、Windows SideShow、Windows SuperFetch、Windows Vista、DirectX、Internet Explorer、Xbox 360、Excel、InfoPath、OneNote、Outlook、PowerPoint、Visio、Officeロゴ、IntelliMouseは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel、Intel Atom、Intel Core、Intel Core Inside、Intel Atom Inside、Intel Core Inside、Intel Inside、Intel Inside Core、Intel vPro、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、vPro Inside、Xeon、Xeon Phi、Xeon Inside、Intel Optaneは、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標です。Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における商標。UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標。LTO、およびUltriumは、HP、IBM Corp.およびQuantumの米国およびその他の国における商標です。他の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標。

●このカタログで使用されている製品の写真は、出荷時のものと一部異なる場合があります。また、仕様は事前の予告なしに変更する場合があります。●表示画面および印刷帳票の出力例のうち、特に断り書きのない出力例のデータ部分はすべて架空のもので、画面ははみ込み合成で実際の表示とは異なります。●このカタログの情報は2022年3月現在のものです。●製品、サービス等詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。●当カタログ記載の製品にプリインストールあるいは添付されているソフトウェア製品につきましては、その梱包方法および内容物に関し、市販されているものとは異なる場合があります。

Lenovo

レノボ・ジャパン合同会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX

<https://www.lenovo.com/jp>

22-03 Printed in Japan

Windows 11